

# 親和的で活気あふれる学びの集団づくり ～生徒指導の視点を生かして～

南会津町立田島小学校  
教諭 松本和也

## 1 はじめに

本校は普通学級6学級、特別支援学級5学級が設置され、児童数182名、教職員数35名で南会津郡内では一番大きな学校であり、めざす学校像を「笑いあふれる田島小」とし日々の教育活動に取り組んでいる。

その実現のため学校運営ビジョンにおいて、3びきのぞうさん「がんばるぞう・みつけるぞう・まけないぞう」をキーワードに設定し、知・徳・体の教育の充実に向け、教職員だけでなく、児童、保護者そして地域が一体となり取り組んでいる。また、今年度は学びの集団の充実を図るため「本当の友達をつくろう」を合い言葉に学校生活を送っている。

## 2 実践について

学級における「学びの集団づくり」とは、単に仲が良い集団をつくることではなく、互いの存在を認め合い、課題に対して協働的に挑む集団を育むことである。福島県教育庁南会津教育事務所作成の「学びのリーフレット（視点6）」においては、生徒指導の視点を生かした授業づくりを核とし「親和的な学級経営」をもとに「児童主体の授業づくり」を推奨している。本校では、その目標を「本当の友達をつくろう」とし、その具体的な子供の姿として、「できたときはともに喜ぶ友達つまずいたときはともに励まし合う友達、ダメなことはダメと言い合える友達」を設定し、取り組んでいる。本稿では、上記ねらいに向け取り組んだ学級経営とその学びの集団をもとにした授業実践を紹介する。

### (1) 学級経営

親和的な学びの集団の実現のためには、特別活動の充実が大切だと考える。特に最高学年として、対外的な活動の際には、教師が子供たちの主体的な行動を称賛し、価値付けるだけでなく、児童同士でも認め合いながら活動することがより親和的な学級の雰囲気づくりにつながっていく。本学級においては、対外的な活動を通して、「子供たちは仲間意識を高めること」「『やらされる』から『自らやる』意識の変化」「後輩に向けてロールモデルになる大切さ」を学び、親和的かつ活気あふれる集団に変化していった。また、子供同士が認め合うことが次の行動への意欲にもつながり、好循環となった。担任としては、児童の考えや行動を称賛し寄り添いながらも、決して馴れ合いにならないように、一歩引き見守るべきところは見守りながら、児童一人一人に適した声かけを行うなど、児童との距離感を意識しながら日々の指導にあたった。

補足資料 6 「生徒指導の実践上の視点を生かした授業づくり」

自ら学ぶことと多様な役割には「目」による目的意識や学習づくりが重要です。授業は生徒指導の場の一つです。そのためには、生徒指導の視点を意識して授業づくりを実践し、関係性について学びたいです。

【授業】における生徒指導の実践上の視点を生かした例

自己決定の場の提供 → 自分（たち）で決めることで、当事者と責任感を育めます。

自己存在の肯定 → 自分が学級や授業の役に立っているという実感をもたせます。

異種別・人間関係の醸成 → 授業で長けた学びの場や経験から、学級の子を驚かせたいです。そして、この学級がみんなの学びの場です。そして、この学級がみんなの学びの場です。



〈最後の鼓笛パレードを前に〉



〈ボランティア活動〉



〈下級生を応援したマラソン記録会〉

## (2) 生徒指導の実践上の視点を生かした授業実践

特別活動の充実をもとに固めた集団を、児童主体の学びの集団として授業において機能させるために以下の2点を考慮し行った。

### ① 主体的な学びを創出するための「自己決定」

学習を「与えられたもの」にしないため、導入において児童自らが「問い」を見出す場を大切にしました。算数科では既習事項と本時の課題の違いに着目させて問いをもたせ、社会科では、大導入において資料を効果的に活用し、単元全体を貫く「めあて」の設定を行った。自ら「めあて」を決定する自己決定の場をつくることで、児童の「自らやる」意識は向上し、主体的な学びへとつながった。

### ② 親和的な関係をもとに「自己存在感を高める」

特別活動の充実により固めた集団をもとに「授業スタンダード」を活用し、「再生活動（繰り返す）」や「換言（言い換え）」「他者説明」を多く取り入れ、児童の発言を価値付けるようにし、肯定や否定に偏らず、個の学びが保障される距離感を担任としては大切にしました。その結果、自分の考えが集団に貢献しているという雰囲気は「自己存在感」を伴った学びの集団となった。そこには主体的に取り組む一人一人が「聞き合う・認め合う」雰囲気が醸成され、その子供たちの関係性は本校でいう「本当の友達づくり」につながったと考える。次に、その学びの集団で行った具体的な授業を紹介したい。






## 3 具体的実践事例

### (1) 単元内自由進度学習 「算数科『およその面積・体積』」

親和的な学びの集団をもとにした児童主体の授業として、単元内自由進度学習を行った。担任としては、「自由進度の効果の検討と単元計画の作成」「各自選択したコースの確認」「『ヘルプコーナー』をはじめとした学びやすい場の設定」「『理解を深め合う発表・学び合いの仕方』の掲示による『全体の練り上げ』のための支援」「個々の実態に応じた個別指導の在り方の検討」などを行い、担任は極力手も口も出さず授業を展開するよう心がけた。

#### ① 主体的な学びの創出をするための「自己決定」

本単元では、単元導入時に単元計画表をもとに、児童一人一人にどの課題から取り組みたいか「自己決定」の場を設け、その後同じ課題を選択した児童同士で小グループとなり、学習を進めていった。小グループ内の児童同士で「めあて」を立て「見通し」と「問い」を共有した上で「自力解決」に取り組んだ。「ヘルプコーナー（ヒントカード、電卓など）」も解決のために自主的に選択し、学習を進めていた。

算数科 単元名		およその面積と体積	
		名前( )	
時間	学習方法	学習内容	
1	一斉	オリエンテーション	
2	自由進度		
3			
4			
5			
6	一斉	つないでいこう算数の目十習熟	

〈自由進度学習の単元計画表〉



〈課題別小集団での自力解決〉

② 親和的な関係をもとに「自己存在感を高める」



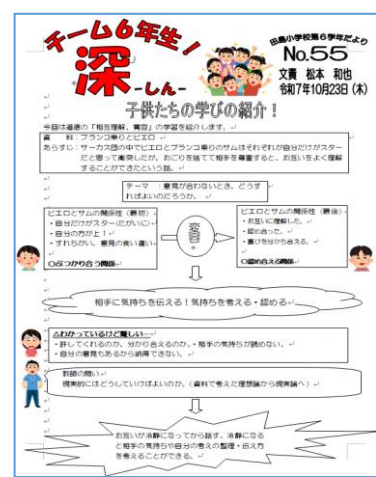
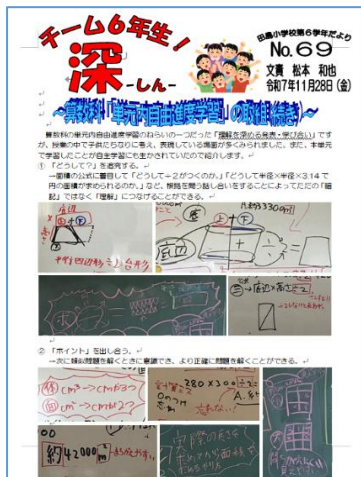
「自力解決」後の「学び合い」「練り上げ」では、担任が他の教科で行ってきた「再生活動（繰り返す）」や「換言（言い換え）」「他者説明」を子供たちが取り入れ、小グループ内で活発な意見交流が行われた。その結果「自分の意見を友達が聞いてくれている。」「この意見は自分だけではない。」と安心感と自信をもつ子供が多く見られた。また、人と異なる意見だったとしても友達の「確かに!」「なるほど!」「その考えもあったかあ。」などの「反応（リアクション）」が多くみられ、集団へ所属感とともに自らの意見が他者の学びにいかされていることに満足感・充実感をもっていた。担任の手を離れ、仲間同士で学び合う子供たちの表情は笑顔いっぱいであった。「自己存在感」を学びの集団内に感じていることがその表情からも伝わってきた。



〈課題別小集団での学び合い〉

(2)家庭との共有

家庭、学校の称賛が、次の学びのモチベーションにつながりやすい。小学校段階において、学校での学びの姿を保護者と共有することは、児童の学習意欲を支える大きな柱である。そこで、授業における児童の「つまずき」や「深まり」の様子を伝える通信を発行した。授業の様子をこの通信をもとに家庭で話題にのることで、児童は「自分の学びが認められている」という実感を改めてもち、それがさらなる学習意欲や家庭学習の充実へつながるようになった。またこの通信をもとに担任の思い等を保護者と共有することができ、親和的な学びの集団を外から強化する成果も見られた。



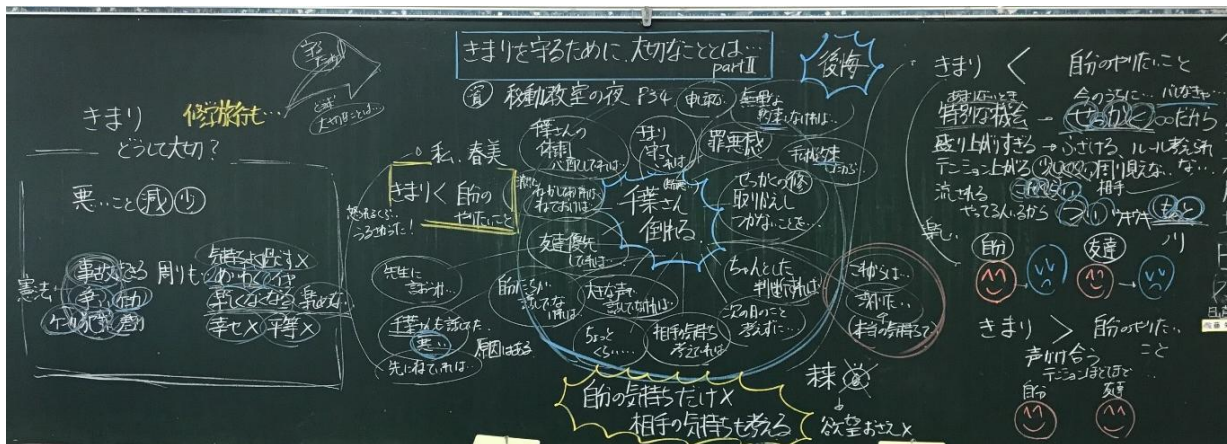
(家庭と共有した学級通信「深」)

#### 4 実践の振り返り

##### (1) 研修の充実

今まで担任してきたクラスは9クラスである。新採用の時から同じような取組ができていたわけではなく、多くの先生方の授業や学級経営を参考にし、まずは真似をすることから取り組んできた。少しずつ自分自身のカラーを加えながらも、まだまだ十分とは言えない。これからも研修の充実を図っていきたい。

その一つとして現在、課題意識をもって取り組んでいるのが板書である。「板書は子供たちの学びの跡」であり、これが構造的になっているということは、授業の道筋が明確であり、子供たちの理解も明確になるということである。日々板書を撮影し、記録するとともに反省に活用している。



〈道徳科「移動教室の夜に」(規則・約束) ※ 修学旅行実施前に カリ・マネを意識して〉

##### (2) 授業づくりセミナー

今年度、南会津教育事務所が主催する「授業づくりセミナー」において、自分の実践を発表する機会をいただいた。自分の実践を他の先生方に聞いてもらい、意見や感想をいただくことは最高の研修の場であり、評価いただけたことは自分自身の振り返りとして大変貴重な機会であった。



〈セミナー参加の方から〉

- 学び方を価値付けたり称賛したりすることで、素晴らしい学級になっていたと感じました。
- 自己決定の場を意図的に設けることで、児童主体の授業につながっていくことを学びました。



これらのことに感謝し、今後も子供たちのために研修に努めていきたい。



〈授業づくりセミナーの様子〉